

小ギク産地の振興

要約

- ・平群町の小ギク産地では物日への安定出荷、高品質化が課題。
- ・盆需要に対応するため、電照栽培面積を拡大し、出荷を安定化。
- ・病害虫防除対策・指導の徹底により、小ギクにおける被害軽減と高品質化。

現状(背景)と課題

- ・露地栽培主体のため、生育が天候に左右されやすく、盆出荷品種の開花日が不安定。
- ・難防除病害虫の発生により、品質低下が発生。
- ・電照栽培を導入推進し、物日へ安定出荷。
- ・共撰検査落ち数量を低減するため、病害虫防除を徹底。



目標

- ・電照栽培面積
対H28 +40a
- ・共撰検査落ち数量
対H28 -20%

活動内容 (対象：JAならけん西和花卉部会)

- ・県LED導入補助事業の導入、活用を支援。
- ・講習会において、盆電照栽培について周知と現地指導。
- ・花芽発達抑制状況調査と消灯時期の指導。
- ・電照消灯後の生育調査と収穫時期を追跡調査。
- ・難防除病害虫の薬剤抵抗性検定と発生予察を実施。
- ・講習会及び現地圃場において、難病害虫に対する防除対策を指導。

成果

- ・電照栽培面積の増加 対H28年+40a (計1.9ha)。
- ・共撰検査落ち数量 対H28年-29%。



電照栽培圃場 (赤色がLED)



オオタバコガ発生予察調査



講習会で情報提供・啓発

北部農林振興事務所農林普及課
担当：農産物ブランド推進第一係
角川由加
(リーディング品目支援事業)

普及活動のポイント

- ・研究成果と現地調査結果をもとに、信頼性の高いデータを生産者に提示しながら指導。
- ・県担当課、JAと連携して補助事業の活用を推進し、電照栽培面積を拡大。
- ・病害虫防除所、JAと連携し、発生予察調査や薬剤抵抗性検定を実施し、その結果を講習会や部会の連絡網を利用して効率的に発信。

対象の変化

- ・本年は気候の影響により、季咲き、電照栽培ともに開花が遅延傾向であったが、電照利用者は長期的視点で来年以降も継続して盆電照栽培に取り組む意向。
- ・キクベと病も発生したが、春先の初期防除が徹底されたことにより、あわせて白さび病の発生も減少。このことにより、生産者は初期防除の重要性を体感。

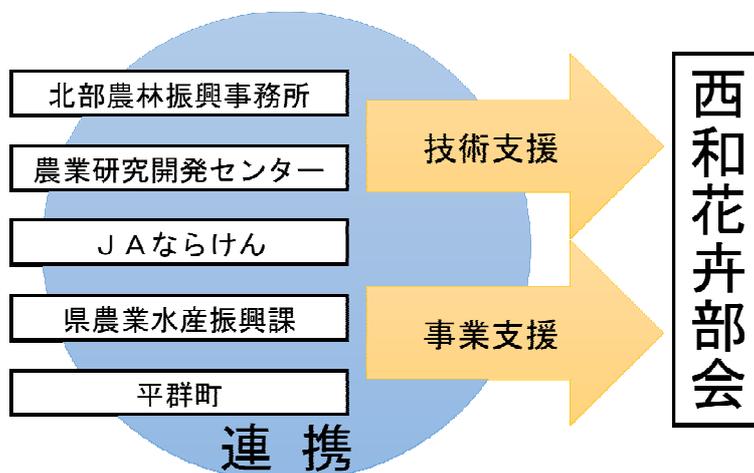
対象者からのコメント

- ・開花制御技術（電照栽培）に対しては生産者だけでなく市場からの要望が高く、産地全体のニーズに合致した課題内容である。
- ・産地から採取した個体でハダニとオオタバコガの薬剤抵抗性検定を実施されたことで、薬剤の効果に対し信用度が増加。

これからの活動ビジョン

- ・本課題は普及活動重点課題として継続して実施予定。
- ・県育成品種の普及推進や、集出荷場（低温貯留庫）の効率的利用などの課題について、今後も計画的に支援活動を実施。

活動体制



用語解説

【電照栽培技術】

キクの開花が日長に左右される性質を利用し、夜間に電照することで、需要期に出荷できるように開花時期を調節する技術。従来、光源として農業用白熱灯が使われていたが、近年、省電力のLED光源が普及しつつある。

【発生予察】

病害虫の発生状況、気候変動などを調査し、その後の病害虫の発生程度、推移を予測すること。病害虫を効率的に防除できる時期などの情報を農業者等に提供する。